



吉川中学校 進路通信
2024.7.16 No.6

※大阪府教育委員会から、大阪府のホームページに7月8日に発表されたものからの引用です。

学力検査問題の種類並びに学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ

令和7年度 大阪府公立高等学校等アドミッションポリシー(求める生徒像)並びに学力検査問題の種類並びに学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ【課程等別、学科別】

<注意事項>

- 複数の学科を設置している高等学校については、それぞれの学科においてアドミッションポリシー並びに学力検査問題の種類並びに学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプを再掲しています。
- 本文中で使用する「普通教科」は、各学科に共通する各教科(国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報)を表しています。
- 「学力検査問題の種類」「倍率のタイプ」の網掛けされた欄は、令和6年度選抜より内容に変更があることを表しています。なお、アドミッションポリシーはスクールポリシーの作成に伴い多くの学校で見直しを行ったため、令和6年度選抜より変更があった場合でも網掛けをしていません。

アドミッションポリシー(求める生徒像)

アドミッションポリシーとは、学校が求める生徒像、期待する生徒の姿を示したものであり、受験生にとって、志望校を決定する大きな判断材料の一つになるとともに、受験生が、出願時に自己申告書を作成する際に参照するものです。

高等学校においては、総合点(学力検査の成績等+調査書中の評定)等とともに、このアドミッションポリシーに基づいて、受験生の合否を判定することになります。

なお、各学校はスクール・ミッション(各校の存在意義や期待される社会的役割、めざす学校像等)に基づき、グレンジーション・ポリシー(育成をめざす資質・能力に関する方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)、アドミッションポリシー(入学時に期待される生徒像を示す基本的な方針)を定めています。スクール・ミッション及び各ポリシーについては、府ウェブサイト「スクール・ミッション、スクール・ポリシー」をご確認ください。

(URL:<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180040/kotogakko/schoolmission/index.html>)

(参考)大阪府公立高等学校入学者選抜制度改善方針より

- 一般選抜(通信制の課程を除く。)及び実技検査を実施する特別選抜
ボーダーゾーン内の生徒のうち、自己申告書及び調査書の「活動/行動の記録」の記載内容により、自校のアドミッションポリシー(求める生徒像)に極めて合致する者を総合点の順位に関わらず優先的に合格とする。
- 面接を実施する特別選抜
選抜の第一手順として、(…中略…)面接、自己申告書及び調査書の「活動/行動の記録」の記載内容を資料として、自校のアドミッションポリシー(求める生徒像)に最も適合する者から順に、募集人員の50%を上限として合格とする。

令和7年度大阪府公立高等学校入学者選抜における「学力検査問題の種類並びに学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ」は各高等学校長が選択し、所管の教育委員会が決定しています。
ただし、大阪府立豊中高等学校能勢分校に係る入学者選抜、海外から帰国した生徒の入学者選抜及び日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜の「学力検査問題の種類」は、選抜の趣旨や実施校の状況を鑑み、所管の教育委員会が決定しています。

(注1) 特別入学者選抜等における問題の種類及び特徴

種類	特徴		
	国語	数学	英語
A (基礎的問題)	基礎的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題や、国語に関する基礎的な知識を問う問題を中心に出題する。	基礎的な計算問題を出題するとともに、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の基礎的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法の理解を問う問題とともに、基礎的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出題する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出題する。
B (標準的問題)	基礎的・標準的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題を中心に、問われたことについて適切に表現する力を問う問題をあわせて出題する。	「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の基礎的・標準的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法についての理解を問ううえで、基礎的・標準的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出題する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出題する。

*英語の学力検査は、「大阪版 中学校で学ぶ英単語集(令和4年6月改訂)」から出題します。

*A、B問題のリスニングテストでは、同一問題を使用し、配点は約20%とします。

(注2) 特別入学者選抜(総合学科(ステップスクール)を除く。)における学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ

総合点を算出するにあたって、学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率は、表1のとおり5つのタイプである。

なお、実技検査を実施する選抜においては、総合点は、学力検査の成績と調査書の評定にそれぞれ定められた倍率をかけて求めた点数に、実技検査の成績を加えたものとする。

表1

倍率のタイプ	学力検査の成績にかける倍率	調査書の評定にかける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
I	1.4倍	0.6倍	315点	135点	450点
II	1.2倍	0.8倍	270点	180点	
III	1.0倍	1.0倍	225点	225点	
IV	0.8倍	1.2倍	180点	270点	
V	0.6倍	1.4倍	135点	315点	

(注3)一般入学者選抜における問題の種類及び特徴

種類	特徴		
	国語	数学	英語
A (基礎的問題)	基礎的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題や、国語に関する基礎的な知識を問う問題を中心に出題する。	基礎的な計算問題を出題するとともに、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の基礎的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法の理解を問う問題とともに、基礎的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出題する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出題する。
B (標準的問題)	基礎的・標準的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題を中心に、問われたことについて適切に表現する力を問う問題をあわせて出題する。	「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の基礎的・標準的な事項についての理解を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 基礎的な語彙・文法についての理解を問うたうえで、基礎的・標準的な内容の英文を読み取る力を問う問題を中心に出題する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題を中心に出題する。
C (発展的問題)	標準的・発展的な内容の文章を正確に理解する力を問う問題とともに、問われたことについて適切に表現する力を問う問題を中心に出題する。	「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の標準的・発展的な事項について、数学的に処理し判断する力を問う問題を中心に出題する。	〔筆答〕 標準的・発展的な内容の英文の中から、話題や論理の流れに沿って必要な情報を素早く読み取る力を問う問題とともに、一定量以上のまとまりのある内容を英文で適切に表現する力を問う問題を中心に出題する。 ※問題文は、指示文を含め、すべて英語で構成する。 〔リスニング〕 自然な口調で話された英語からその具体的な内容や必要な情報を聞き取る力を問う問題とともに、「読む・聞く・書く」技能を統合的に活用する力を問う問題を出題する。

(注4)一般入学者選抜(全日制の課程)における学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ
総合点を算出するにあたって、学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率は、表2のとおり5つのタイプである。

表2

倍率のタイプ	学力検査の成績にかける倍率	調査書の評定にかける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
I	1.4倍	0.6倍	630点	270点	900点
II	1.2倍	0.8倍	540点	360点	
III	1.0倍	1.0倍	450点	450点	
IV	0.8倍	1.2倍	360点	540点	
V	0.6倍	1.4倍	270点	630点	

(注5)一般入学者選抜(定時制の課程)における学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率のタイプ
総合点を算出するにあたって、学力検査の成績及び調査書の評定にかける倍率は、表3のとおり5つのタイプである。

表3

倍率のタイプ	学力検査の成績にかける倍率	調査書の評定にかける倍率	参考		
			学力検査の満点	調査書の満点	総合点
I	1.4倍	0.6倍	378点	162点	540点
II	1.2倍	0.8倍	324点	216点	
III	1.0倍	1.0倍	270点	270点	
IV	0.8倍	1.2倍	216点	324点	
V	0.6倍	1.4倍	162点	378点	

- *英語の学力検査は、「大阪版 中学校で学ぶ英単語集(令和4年6月改訂)」から出題します。
- *A、B問題のリスニングテストでは、同一問題を使用し、配点は約20%とします。
- *C問題のリスニングテストでは、A、B問題と異なる問題を使用し、配点は約33%とします。